TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

第 59 回地域安全学会秋季研究発表会に参加しました（2026/11/7-8）

テーマ：災害科学、防災・減災
会　場：静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）

令和８年 11 月７日（土）～８日（日）の２日間、静岡県地震防災センターにて、第 59 回（2026 年度）地域安全学会研究発表会（秋季）が開催されました。地域安全学会は、研究者や行政・企業などの実務者が、自然災害や人為災害を含む地域の安全に関する課題を学際的に研究する学会です。

当研究所の関係者が著者に含まれる研究として、査読論文９件の口頭発表と一般論文１件のポスター発表が行われました。発表題目は次の通りです。（下線は当研究所の教員・研究員を示します）

査読論文の発表

- 古屋貴司（研究戦略推進室）、横内基：伝統的建造物が混在する市街地における延焼火災リスクと住民の初期対応能力の構造分析―重要伝統的建造物群保存地区・桜川市真壁地区を対象として―
- 梶明日香、佐藤翔輔（防災社会推進分野）、新家杏奈（イオン防災環境都市創生共同研究部門）、千葉智史、成田峻之輔、岡元徹、今村文彦（津波工学研究分野）：津波避難先の判断支援手法に向けた VR を用いた実証研究：発災時予測に基づく「面」としての津波高さ可視化ツールの可能性
- 成田峻之輔、佐藤翔輔、三上雄大、今村文彦：津波避難施設用のバルーン型避難標識を対象とした VR 空間の視認データに基づく視認確率推定モデル
- 加藤萌々花、村尾修（国際防災戦略研究分野）、古屋貴司、Yun-Chi YU：南海トラフ巨大地震に備えた和歌山県沿岸 18 市町の事前高台移転の戦略的ゾーニング
- 浅野仁作、佐藤翔輔、戸島健人、今村文彦：訪問支援員による支援記録を用いた被災者生活再建支援の実態分析―2023 年７月秋田豪雨の被災地における事例―
- 新家杏奈、佐藤翔輔、今村文彦：遠地津波警報下の避難所利用者減少に着目した避難継続性の分析―2025 年カムチャツカ半島付近の地震に伴う福島県いわき市の事例―
- 星美沙希、佐藤翔輔、今村文彦：津波避難時の徒歩避難促進に向けた「ナッジ」の利用可能性の検討：青森県八戸市を対象としたケーススタディ
- 川見文紀、三谷泰浩、四嶋信一、藤村藍香、藤本慎也（防災コミュニケーション学分野）、立木茂雄：住民参加型避難促進プロジェクトの効果検証―4 つの取り組みと避難行動への自己効力感の関係の分析―
- 佐藤翔輔：自治体における災害対応経験の伝承と階層別職員研修の両立に関する実践的研究：災害対応に備えて磨く通常業務におけるコンピテンシーの顕在化

一般論文の発表

- 杉安和也、寅屋敷哲也、川見文紀、折橋祐希、落合努、郷右近英臣、富澤周、河本尋子、畠山久、佐藤翔輔、松川杏寧：地域安全学夏の学校 2026－基礎から学ぶ防災・減災－地域安全学領域における若手人材育成その 10

また、懇親会では、「地域安全学 夏の学校 2026」で優秀発表賞を受賞した松崎圭さん（修士 2 年）と、「第 58 回地域安全学会研究発表会（春季）」で同賞を受賞した二渡杏さん、星美沙希さん（いずれも修士２年）が表彰されました。今後も、地域の実情に即した防災・減災の実践につながる研究を進めていきます。

（次頁へつづく）



佐藤翔輔准教授の発表



古屋貴司特任准教授の発表



新家杏奈助教の発表



(左から)佐藤翔輔准教授・二渡杏さん・
星美沙希さん・松崎圭さん・村尾修教授

文責：新家杏奈（イオン防災環境都市創生共同研究部門）